みやこ町歴史民俗博物館

# 博物館だより

MIYAKO TOWN DIGITAL MUSEUM
www.miyako-museum.jp

No.202

令和５年９月１日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
ＴＥＬ０９３０－３３－４６６６
ＦＡＸ０９３０－３３－４６６７

博物館休館日カレンダー
2023年 9月

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 1 | 2 |
| 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |

休館日 ※情報はR5.8.22現在

## ◆博物館NEWS
### 「博物館のいろどりミニ展示」第４弾 平和と自然を考える企画が好評でした！

博物館では夏休み期間中「博物館のいろどりミニ展示」と題した２つの展示を行いました。

一つは「ちっちゃないっぴんミュージアム『戦時生活文化資料』」展、もう一つは「松田勝弘昆虫コレクション」展です。

▲町内外から寄贈頂いた戦時生活資料の一部　特攻を志願した人、銃後を護った人、誰もが戦争に関わった時代の資料です

前者は戦争が暗い影を落とす一九四〇年代の生活資料の一部を展示したものです。後者は令和２年に町内在住の松田勝弘さんから寄贈された貴重な昆虫標本資料を紹介したものです。ご観覧頂いた皆さん有難うございました。

▲コレクションは八景山周辺からボルネオまで、採集者の松田さんが世界を股にかけて集めた2万匹余りの資料の一部です

## ◆講座・教室・催し物ガイド
### 9月の歴史講座

【漢詩紀行講座】
9月2日（土）　9時30分～
【古文書講座】
9月9日（土）　10時～
【古典かな講座】
9月16日（土）　9時30分～
【みやこ学講座】
9月23日（土）　10時～

※日程等変更となる場合があります。
※見学会等は別途通知します。

## ◆文化遺産ボランティア（豊み隊！）活動レポート
### 永沼家住宅　夏の一斉清掃へ参加

7月23日（日）豊み隊！活動はガード編の一環として永沼家住宅での一斉清掃に参加しました。

大雨の直後で多少泥まみれになりましたが、有意義な活動となりました。

▲今回は傷みが激しかった庭園周辺を中心に清掃しました

## 7月・8月の業務日誌から

7月30日（日）、博物館友の会と合同で文化財研修を行い、秋月博物館（朝倉市）と九州歴史資料館（小郡市）を見学しました。４年ぶりの開催となった研修でしたが、参加者は一つ一つの見学に熱心に向き合っていました。

▲九州歴史資料館でのバックヤードツアーの様子　展示機能を備えた収蔵庫には様々な時代の特色ある土器が並んでいました

8月1日（火）、永沼家住宅で7/10の豪雨時に床下へ流入した土砂等の撤去作業を行いました。博物館職員が協力して畳をあげ、床板をはがしての作業は大変でしたが、復旧に向けての大事な一歩です。

▲床下には最大10cmほどの厚さの土砂が入り込んでいましたが、作業によりとりあえず撤去することができました

8月2日（水）、豊津中学校の職場体験学習の一環として、２名の生徒を受入れました。当日は文化財パトロールや出土遺物整理といった、普段目にする機会も少ない、博物館の作業の一部を体験していました。

▲出土資料の整理作業のひとつ「拓本」採取作業　土器表面の模様を貼り付けた紙に写し取る繊細な作業です

8月6日（日）、犀川公園（本庄池）を会場に「昆虫博士とゆく『みやこの昆虫採集＆観察会』」を開催しました。

里山が広がる公園内は様々なチョウやクワガタ等の昆虫を見ることができ、格好の採集＆観察会となりました。

▲公園内のクヌギやナラの木には樹液の滴るスポットがあり、そこにさまざまな昆虫たちが集まっています

# みやこの歴史発見伝 161

## 「天災は忘れた頃にやってくる」漱石門下が記した震災記録

### 関東大震災から100年

本年9月1日で、大正12年（1923）に発生した関東大震災から100年となる節目を迎えます。震災発生時刻の午前11時58分は炭火等を使った昼食準備の時間帯であったことから各地で火災が発生し、さらにその炎が前日の台風に伴う強風に煽られたことによって大規模な火災となりました。この火災はその後3日間続いたことから、木造住宅が密集していた首都圏は、まさに「火の海」と化し、約20万戸の家屋が焼失し、死者・行方不明者が推定10万5千人にのぼるなど、明治時代以降に発生した日本の地震としては最大規模の被害を記録しています。このような災害についての認識を深め、対処する心構えの準備等を目的として昭和35年（1960）に震災発生日の9月1日を「防災の日」に定め、全国各地で防災訓練などが実施されています。このように関東大震災は、近代日本における災害対策の出発点となりました。自らが被災したり、またその惨状を目の当たりにした当時の文学者は、この震災を文章で表現・記録しています。夏目漱石門下生では、鈴木三重吉、和辻哲郎、野上弥生子、内田百閒等の被災記録が残されていますが、今回は、この震災をきっかけに災害科学の研究に没頭し、現在の震災研究の基礎を築いた一人の漱石門下生をご紹介します。

### 物理学から災害科学へ

高知県出身の寺田寅彦（1878～1935）は、夏目漱石門下生の一人です。みやこ町出身の小宮豊隆が主人公のモデルといわれる小説『三四郎』に登場する物理学者「野々宮宗八」のモデルとされる人物として知られています。この小説同様にノーベル賞候補者に匹敵する研究成果を挙げるなど、世界的な物理学者として活躍した人物で、漱石門下の中でも特に小宮豊隆と仲が良く、無二の親友であったことが伝えられています。

当時、東京帝国大学理科大学教授であった寅彦は震災の当日、知人で画家の津田青楓と喫茶店で歓談中に被災しました。青楓はすぐに帰宅しますが、この当時、文部省の「震災予防調査会委員」に任命されていた寅彦は専門家として震災直後の被災状況を調査するため町中を歩き回ります。震災の被害状況を目の当たりにした寅彦は、被害を拡大させた最大の要因が火災であることを説き、江戸時代の災害で10万人以上が犠牲となった「明暦の大火」やマグニチュード8.6を記録した「宝永の大地震」などの古記録を比較対象として研究を重ねます。その結果、「文明の力を買いかぶって自然を侮りすぎた結果からそういうことになったのではないかと想像される。」と述べ「同様の災害を経験しながら再度、大きな被害が繰り返されたのは過去の教訓が全く生かされていないことが原因である」と結論付けています。

### 「天災は忘れた頃にやって来る」

寺田寅彦は主に物理学を研究していましたが、この震災をきっかけに地震学や災害科学の研究に没頭します。震災後「大震災の帝都の実況」と題した被災状況の絵葉書が販売されていますが、この当時、ドイツに留学していた小宮に宛て、寅彦が送った絵葉書が当館に展示されています。また寅彦は関東大震災をきっかけに防災関連の随筆を多数執筆しています。『天災と国防』という著書の中では、防災のためには過去の経験・歴史に学ぶことが肝要であるとして「文明が発達するほど天災による損害が増加する傾向である事実を自覚し、日常生活の中でそれに対する防護策を講じなければならない。しかしこれらの対策がとられていないのは、このような天災が非常に稀にしか発生しないと思っているから」と防災意識について問題提起を行った上で「天災は忘れた頃にやって来る」という有名な警句を残しています。この名言は、戦前から戦後にかけて9月1日の新聞紙面で頻繁に用いられており、近年では東日本大震災の報道時に引用されています。また「戦争は避けようと思えば人間の力で避けられなくはないが、天災は科学の力でもその襲来を中止できない。その上、いつ、どこで、どのような天災が発生するか容易に予知できず、突然襲来するのである。国家を脅かす敵として天災ほど恐ろしい敵はないはずである。」と天災が戦争に勝る国家の脅威であることを伝えています。

▲「震災絵ハガキ　銀座」（寺田寅彦から小宮豊隆宛て大正12年10月22日）みやこ町歴史民俗博物館蔵

### 「天災は忘れる前にやって来る」

日本は地震大国で、これまで幾度も大地震に見舞われてきました。また近年の地球温暖化等により、様々な天災の規模や被害が増大し、かつて「数百年に一度」とされた大規模災害が毎年のように頻発しています。このような状況に対して現在、寺田寅彦の名言をもとに「天災は忘れる前にやって来る」「天災は忘れる間もなくやって来る」等と表現されています。このような100年後の状況を予見したような彼の言葉が残されています。「人間は何度同じ災害にあっても決して利口にならぬものであることは歴史が証明する（中略）今の世で百年後の心配をするものがあるとしたらおそらくは地震学者ぐらいのものであろう。」

100年が経過した現在も全く色褪せることのない彼の言葉の意味をもう一度見つめなおしてみることが、今後の防災対策の切り札になるのかもしれません。

（井上信隆）